日刊工業新聞
年月日 18 09 14 ページ 12 NO.

ICT 世界の潮流 PART6 9

AI・IoT時代の経営資源㊤

デジタルの場 適応急務

国際社会経済研究所（NECグループ）主任研究員
松永 統行

所有から利用

会員制交流サイト（SNS）の登場により、シェアリングエコノミーが生まれ、所有から利用へと、価値観の変化が生まれている。自己参画性の高いSNSの情報空間にコミュニティーができ、その中で社会価値が形成される時代になった。

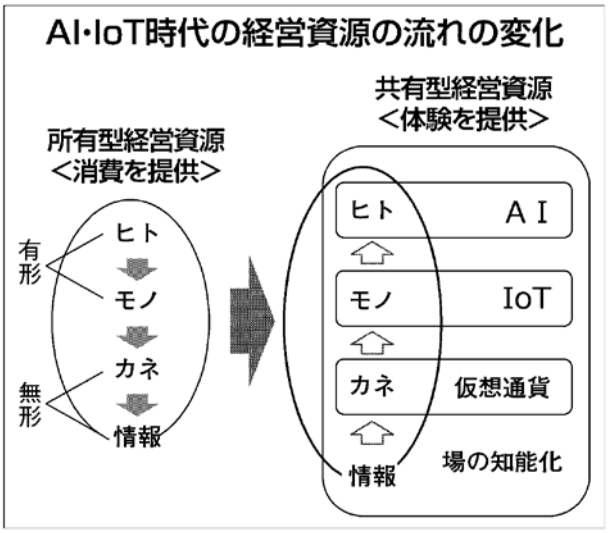
人工知能（AI）は今後、SNSの中にも搭載されるようになり、私たちの身近にあるデジタル空間においても「場の知能化」が進むだろう。このような変化が続き、劇的に人々の価値観や暮らしが変わっていく可能性が広がる理由は、経営資源の流れに逆転現象が生じていることによる。

経営資源の共有

20世紀の経営資源は、ヒト・モノ・カネ・情報といわれるが、情報が加わったのは1980年代からである。この頃のコンピューターは高度な専門性が必要なマシンであり、国家や大企業のものであった。

この時期の経営資源とは、近代企業が競争力を最大化するために必要な要素を意味した。20世紀の後半は、グローバリゼーションを伴う国際競争の時代であり、有形のヒト・モノや無形のカネ・情報が、経営資源として国境を越えて移動するようになる。企業は、グローバルに利潤を追求できる組織への変貌が求められる中で、いかにしてこの経営資源を獲得するかに関心を高めた。キャッシュフローを生むためには、ヒトから始まり、モノ、カネ、情報というこの一連の経営資源をより巨大に所有することが重要であった。

SNSの上に登場したシェアリングエコノミーは、情報空間に生まれた場に、カネやモノやヒトが集まり、それらの経営資源を共有し経済活動を行う。従来の企業の利潤とは異なる意味のカネを集めるクラウドファンディングの仕組みも広がった。



逆転現象

20世紀の経営資源は消費を提供し、ヒトやモノは有形の資源と捉えられていたが、シェアリングエコノミーにおける経営資源は、体験を提供し、コト化しているのが特徴である。情報空間に場が生まれ、カネやモノやヒトがコミュニティーの中で創発的にコトとして関係性を形成し、経済活動や社会活動を行いながら経営資源の流れに逆転現象が生まれている。

新しく登場したAI・IoT（モノのインターネット）・仮想通貨は、従来のヒト・モノ・カネに相当する経営資源であるが、今後、デジタルの場を知能化していく萌芽的概念でもある。利用者が生み出す情報空間で共有型の経営資源が生まれるというパラダイムシフトが従来の経済活動の上に重畳的に進行しており、社会はこのような新しいデジタルの場に適応した変革の在り方を問われている。

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社